

## 生きづらさに寄り添う「地域のチカラ」 ～第73回 “社会を明るくする運動”

### 法務省保護局更生保護振興課

皆様におかれましては、法務省が主唱する“社会を明るくする運動”に対し、多大な御協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

2023年、“社会を明るくする運動”は、第73回を迎えました。

2023年1月には、法務省において、第73回運動のスタートを切る“社会を明るくする運動”中央推進委員会会議が開催され、運動のコンセプト等が策定されました。

同年4月には、岸田内閣総理大臣より、本運動にメッセージがよせられました。メッセージは法務省YouTubeチャンネルにて、動画で御覧いただくことができます。

### I 生きづらさに寄り添う「地域のチカラ」

第73回“社会を明るくする運動”は、前回に引き続き、“生きづらさを生きていく。”をメインコピーとし、犯罪や非行の背景にある様々な“生きづらさ”に思いを致し、各々の“生きづらさ”に寄り添い、人と人が互いに支え合うコミュニティを築くことで、安全で安心な明るい社会の実現につなげてまいります。

ここでは、第73回運動における発信の3つのポイントについて御紹介します。

### 1 接点を増やすこと＝未来の選択肢を増やすこと

第71回運動では「対象者と保護司」、第72回運動では「元当事者と今の当事者」と、これまで「#生きづらさを生きていく。」のメインコピーの元では、一対一の関係を描いてきました。しかし、立ち直りに必要な関係は、一対一にこだわるものではありません。

立ち直りに必要なのは、むしろ「関わりを多く持つこと」「色々な人が様々な場面で少しずつ支えていること」ではないでしょうか。立ち直りに必要なのは、特定の個人のチカラだけでなく、地域やコミュニティが持つチカラなのではないかと考えています。

立ち直りを誰か特別な人に委ねて足りると感じているとすれば、それは無関心であることと同じではないか。

大切なことは、社会、地域に戻り立ち直ろうとしている人と、そこに暮らす色々な人との「接点を増やすこと」であり、地域やコミュニティにおける人と人とのつながりがもたらすチカラが、「接点を増やすこと」においては必要なのではないか。

そして、地域における接点を増やし、色々な人とのつながりを持つことによって「未来の選択肢を増やすこと」ができるのではないか。

そんな思いから、今年は、「地域における接点を増やすこと＝未来の選択肢を増やすこと」